

＝ 2013年支部長新年挨拶 ＝

支部長 宿里 勝信

中部支部会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。新年を迎え協会の繁栄と皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。



本年は東日本大震災から早や3年目となりますが、構造技術者として大地震の教訓を風化させることなく社会に対しての責任を果たしていかなければなりません。東海地方においても南海トラフ沿いで巨大地震の発生が懸念されています。自然の現象に対しては真摯に向き合いながらも、人工物である建物の安全性の確保については、まず建築主との合意が必要ですが、構造技術者個人の判断に委ねられている部分が多くあります。私達の先輩は、昭和56年の構造家懇談会設立趣意書の構造家の職能の中で、「美と経済、心と技術の調和を保ちつつ、建築の機能を達成し、自然の災害から人命と文化の尊厳を守る」という重責こそ構造家の職能である」と明記しています。

私達の日頃の業務は、建築主の多様な要求やその他の多くの制約条件の中で遂行されますが、どのような環境にあっても、構造技術者としての強い信念を持って対応していかなければなりません。

昨年の中部支部は、会員の皆様のご協力により多くの成果を得る活動ができました。私達を取り巻く社会環境、特に経済環境は依然として厳しい状況でありましたが、本業の傍ら愛知、岐阜、三重、静岡、富山、石川、福井の7県の会員の皆様には支部活動に対して多大なご協力を頂きました。心中より感謝申し上げます。主な活動として、構造デザイン発表会においては、支部と全国の場において若手技術者に多くの作品を発表して頂きました。創造性豊かな内容と自信に満ちた発表に支部の将来の姿の一端を垣間見た瞬間でもありました。これからも積極的に挑戦していきたい活動であり、中部支部での開催も皆様のご協力を得て実現したいものです。愛知県等の各行政機関との活動については、懇談会の開催、耐震相談窓口、行政主催の活動への協力等確実に推進されています。また9月に開催された

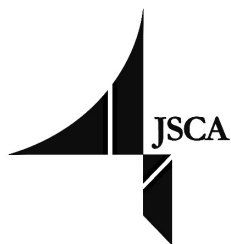
日本建築学会大会においては各委員会活動への参加と「構造デザイン探訪ツアー」の催物に対する協賛を行い、学会との交流がはかれたものと思っています。

定期的な活動として各委員会や部会では多くの講習会等が開催され、会員の皆様への有用な情報提供が行われています。情報の有効活用之际には、技術者自らが考える習慣を怠らず、その背景を敏感に感じる感性を磨いていきたいものです。

本年の支部活動も社会の諸団体との協力体制の維持向上と会員のための組織強化を重点目標として推進していきたいと思えます。特に若手構造技術者育成は、中長期の重要な課題です。昨年第1回目の「若手構造設計者向け講習会」を実施致しました。ベテランと若手が一緒になって構造計画の課題に取り組む講習会は、先輩との出会いや技術の伝承といった成果が得られ、本年も年初に企画されています。

また久しく更新のなかった支部ホームページが近々に刷新される予定です。各委員会、部会、技術交流会の皆様の情報発信や意見交換等が容易に行われる環境が再整備されますので大いに活用して頂きたいと思えます。中部支部は471名の正会員で構成されています。幸いにして支部会員は増加の傾向にありますが、微増の状況にすぎません。会員の増加が活力ある支部活動推進の原動力の一つであり、皆様には引き続きご支援をお願い申し上げます。

本年は、伊勢の神宮の式年遷宮の年です。今から約1300年前に定められたとされるこの制度は、社殿を新しくすることにより、国も生まれ変わり、国民も新鮮に清く明るく、そして国の永遠の発展を願うという最大最高のお祭りと言われています。この記念すべき年に、中部支部の伝統に活動の基軸を置き、お互いが健康に留意し、そして構造技術者の職能に大きな希望を持ってJSCA会員の一人としての使命を果たせるよう目標に向かって邁進していきましょう。中部支部会員の皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。



(一社)日本建築構造技術者協会
 中部支部

Japan Structural
 Consultants Association

謹 賀 新 年

本年も宜しくお願い致します

JSCA 中部支部役員一同

一般社団法人 日本建築構造技術者協会 中部支部事務局
 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-15 桜通ビル
 TEL/FAX 052-218-9011



商店街に建つ遊技場の計画

株式会社名構設計 河村 好則
(Nagoya Structure Design Inc.)



概要

建築主：株式会社アルドール様
設計・監理：株式会社東京オデッセイ様
施工：株式会社金澤工務店様
住所：大阪府吹田市高浜町1044-3 ほか8筆
工期：平成24年3月～平成24年7月
主要用途：ぱちんこ屋・飲食店・公衆浴場・自動車車庫
構造階数：鉄骨造 地上7階 地下及び塔屋は無し
建築面積：1590.96㎡
延べ面積：7183.08㎡
最高高さ：24.40m
最高軒高：23.75m

建築概要

JR吹田駅より南へ伸びる商店街の一角に、既存店舗として営業している施設を解体し新築する計画です。基本的に新たに店舗を新築することができないため、既得権を主張するという観点から道路に面する構造躯体（杭・基礎・地中梁・柱・大梁）の一部を残し、新設部と接続する計画としています。そのためファサードは既設躯体を取り込むような計画としています。商店街にアーケードがあるため施工時にはアーケードの一部を撤去し、竣工時に復旧する計画としなければなりません。

日影規制や道路斜線の制限により各階が各方向ともセットバックしています。1、2階には上階へ行く車路を有する店舗施設、3階～最上階には自走式の自動車車庫が計画されています。1、2階は店舗であり、ぱちんこ屋の「島」と云われている遊技台の配置により柱の割付が決定されており、また上階では自動車車庫となっているため柱の一部は通し柱とはならず、また抜けているところ

もあります。大梁も同様です。階の構成も複雑であり、連続傾床の車庫の一部を店舗として使用するため、高上げや床の下がり部分も有しています。顧客要望により仕上げに耐火被覆は用いず、耐火鋼を使用することとなりました。



構造計画

上部構造は両方向ともラーメン構造とし計画しました。連続傾床を有しているため、道路からのアプローチは土間及びRC スロープとし、以降は鉄骨造による骨組みモデルとしました。3階以上には適宜偏心抑制のブレースを配置し、セットバックに伴う大きな出寸法を有する片持ち梁も存在します。床は各階とも合成床版を採用し、梁への影響も併せて考慮しています。一階の床はエレベーターピット底版を除き、土間コンクリートとしています。主要な各構造部材の使用材料や工法は以下のとおりです。

柱 冷間プレス成形角形鋼管 (BCP325) FR 鋼、冷間ロール成形角形鋼管 (BCR295) FR鋼、大梁 溶接構造用圧延鋼材 (SM400A, SM490A) FR 鋼、現場継手ブラケット工法、柱脚 SuperHIBASE (日立スパーハイバース工法) 通常タイプ及び偏心タイプ、ジャストベース工法 (露出型弾性固定柱脚工法) を本体内にて併用しました。

地盤及び下部構造

計画地一帯の大阪層群や段丘層は、よく締まった砂・砂礫と固結状の粘土から構成され、互層状に堆積しており比較的浅い所から洪積層が現れています。また、次に

- ・最大加速度 $a = 150\text{gal}$ → 全地層においてFL値 > 1.0 である。
- ・最大加速度 $a = 350\text{gal}$ → 全地層においてFL値 < 1.0 であるが、PL 法による判定結果は5.0以下である。

という結果から、浅層部の砂層を支持層とする独立杭基礎を選択しました。上部構造において短いスパンが存在し地震時軸力の変動が大きく浮上りが生じていることもあり、引抜き力が定められているHyperMEGA 工法 (TACP-0210砂質地盤) を採用しました。

実施設計のポイント

- 短期間にて実施設計を完成させ、審査期間を1ヶ月とする。
- 構造躯体費用を極力抑え経済的なものとする。
- 一次設計に余裕を持たせ、耐火鋼のロットを意識して部材決定し耐火設計資料作成を行う。
- 残存する既設基礎の解体範囲を極力少なくし工事費に反映させる。
- 残存躯体をうまく取込む上部下部の架構計画とする。

上記の項目を意識した構造設計を行い申請図書の作成を行いました。

構造計算概要

弊社では一貫計算ソフトはSuperBuild/SS3 (ユニオシステム株式会社) SEIN La CREA (株式会社NTTデータ) ASCAL (アークデータ研究所) を所有していますが、本物件ではSS3 を用いて2次設計までを行い、MIDAS/GEN (構造計画研究所) にて追加検討を行い安全性の検証を実施しました。また連続傾床を有しているため、日本プレハブ駐車場工業会の「連続傾床式の自走式自動車庫の構造計算方法」のフラットモデル化に準拠し設計を行いました。

検討結果

フラットモデルによる解析結果では各階の層間変形角はすべて1/200未満となる結果となりました。しかし、偏心率や剛性率については、やはり2階より上にブレースを配置していることにより、NGとなります。しかし柱梁耐力比を満たしているため、両方向とも全体崩壊と判定されており健全な架構であると判断できます。また、ブレースランクはBC、BBとなっているため、Ds は0.3を示す結果となりました。Qu/Qu_n は最小部分のY方

向1階の1.16であり最大はX方向2階以上の1.51となりました。

必要保有水平耐力比較

※DsはDs算定時、Quは保有水平耐力時の値とする
 ※Ds、Fes、Qudに於いて(*1:選定入力 *2:0.05割増し *3:ランクIV *4:柱脚による割増し)
 ※ 確率の考慮の不利な方を採用する

不利な方: Rは小さい方、Reは大きい方
 X方向正加力 Ds算定時: 指定最大層間変形角(1/30)に達した。(最終STEP=239)
 保有水平耐力時: 指定最大層間変形角(1/100)に達した。(STEP=188)

階	Ds	Fe	Fs	Fes	Qud[kN]	Qun[kN]	Qu[kN]	Qu/Qu _n	判定
R	0.25	1.000	1.000	1.000	10457.4	2614.3	3919.6	1.49	OK
7	0.25	1.000	1.000	1.000	20216.5	5054.1	7577.6	1.49	OK
6	0.25	1.000	1.000	1.000	29782.8	7445.7	11163.6	1.49	OK
5	0.25	1.000	1.000	1.000	38918.2	9729.5	14588.2	1.49	OK
4	0.25	1.000	1.000	1.000	47505.3	11876.3	17806.8	1.49	OK
3	0.25	1.000	1.000	1.000	54096.6	13524.1	20277.8	1.49	OK
M2	0.30 *4	1.000	1.000	1.000	55686.7	16706.0	20873.9	1.24	OK

X方向負加力 Ds算定時: 指定最大層間変形角(1/30)に達した。(最終STEP=235)
 保有水平耐力時: 指定最大層間変形角(1/100)に達した。(STEP=190)

階	Ds	Fe	Fs	Fes	Qud[kN]	Qun[kN]	Qu[kN]	Qu/Qu _n	判定
R	0.25	1.000	1.000	1.000	10457.4	2614.3	3958.7	1.51	OK
7	0.25	1.000	1.000	1.000	20216.5	5054.1	7653.2	1.51	OK
6	0.25	1.000	1.000	1.000	29782.8	7445.7	11275.0	1.51	OK
5	0.25	1.000	1.000	1.000	38918.2	9729.5	14733.7	1.51	OK
4	0.25	1.000	1.000	1.000	47505.3	11876.3	17984.5	1.51	OK
3	0.25	1.000	1.000	1.000	54096.6	13524.1	20480.0	1.51	OK
M2	0.30 *4	1.000	1.000	1.000	55686.7	16706.0	21082.1	1.26	OK

Y方向正加力 Ds算定時: 指定最大層間変形角(1/30)に達した。(最終STEP=231)
 保有水平耐力時: 指定最大層間変形角(1/100)に達した。(STEP=181)

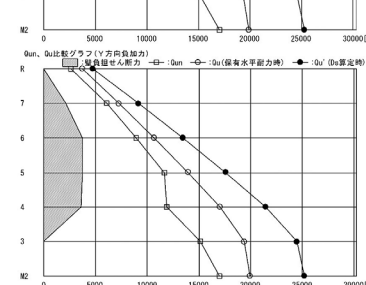
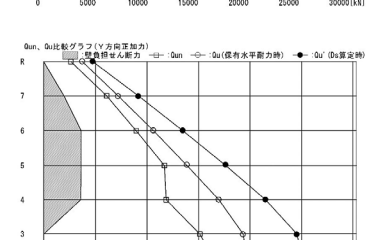
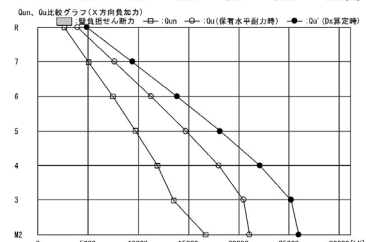
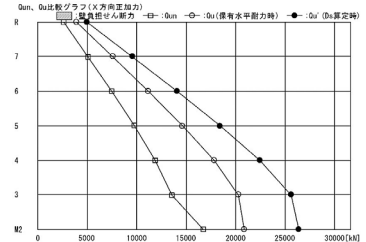
階	Ds	Fe	Fs	Fes	Qud[kN]	Qun[kN]	Qu[kN]	Qu/Qu _n	判定
R	0.25	1.000	1.000	1.000	10457.4	2614.3	3735.1	1.42	OK
7	0.30	1.000	1.000	1.000	20216.5	6064.9	7220.9	1.19	OK
6	0.30	1.000	1.000	1.000	29782.8	8934.8	10638.1	1.19	OK
5	0.30	1.000	1.000	1.000	38918.2	11675.4	13901.4	1.19	OK
4	0.25	1.000	1.000	1.000	47505.3	11876.3	16968.6	1.42	OK
3	0.25	1.120	1.000	1.120	54096.6	15147.0	19323.2	1.27	OK
M2	0.30 *4	1.000	1.018	1.018	55686.7	17006.7	19891.3	1.16	OK

Y方向負加力 Ds算定時: 指定最大層間変形角(1/30)に達した。(最終STEP=229)
 保有水平耐力時: 指定最大層間変形角(1/100)に達した。(STEP=180)

階	Ds	Fe	Fs	Fes	Qud[kN]	Qun[kN]	Qu[kN]	Qu/Qu _n	判定
R	0.25	1.000	1.000	1.000	10457.4	2614.3	3744.6	1.43	OK
7	0.30	1.000	1.000	1.000	20216.5	6064.9	7239.2	1.19	OK
6	0.30	1.000	1.000	1.000	29782.8	8934.8	10665.0	1.19	OK
5	0.30	1.000	1.000	1.000	38918.2	11675.4	13936.6	1.19	OK
4	0.25	1.000	1.000	1.000	47505.3	11876.3	17011.6	1.43	OK
3	0.25	1.120	1.000	1.120	54096.6	15147.0	19372.2	1.27	OK
M2	0.30 *4	1.000	1.018	1.018	55686.7	17006.7	19841.7	1.17	OK

必要保有水平耐力比較

1.6.2 必要保有水平耐力と保有水平耐力比較図



地場産木材(天竜杉)を活用した免震庁舎 浜松市天竜区役所

(株)飯島建築事務所 金子 慶一、長谷川泰稔
野村 幸夫、八木 茂治

1.概要

本建物は、平面形状67.5m×18.9m、地上2階、塔屋1階、最高高さが約11mの区役所および消防庁舎の機能を有する合同庁舎である。建設地は、森林活用・保全地区に位置づけられる静岡県浜松市天竜区であり、地場産の天竜杉は、国産杉材の中でも木目が細かく美しいため、家具などに利用される銘木である。以上を勘案し、周辺森林環境を体感でき、また一体感を生み出す建築計画とし、地場産木材の普及貢献のため、木材を積極的に活かした建築を実現する。

また、地震発生確率の高い地域であることから、防災拠点として十分な耐震性を確保する事を目的として、免震構造を採用する。

2.構造計画・設計

木材は、地場産木材の特徴を引き出すため、集成材ではなく製材を選択する事となった。製材の場合、木造としての耐震要素は方杖によるラーメン構造や耐力壁が考えられる。しかし、内部空間は将来の多様な利用形態に追随できるように、フレキシブルな空間とする必要があった。そのため、スパンを5m～7m程度に設定し、用途区画および防火上の面積区画として必要な両側および中央のコア部分をRC造とすることで、執務空間は木柱のみで支持される空間とした。なお、コンクリートコア部分は壁式構造を採用し、免震効果を発揮する十分な上部構造の剛性確保にも結びついている。階高は、快適な天井高さを確保するため、3.6mおよび4.0mとなった。

また、1階の居住性確保のため、2階床部分の遮音性を高める必要があり、床をコンクリートとした。2階床を支える木柱は、単材では荷重が大きく、地場産の製材において入手可能な断面サイズでは設計不可能であったため、4つの材を組み合わせた柱とした。また、部材長の制限もあったため、2階梁の取付き部において、鉄骨で製作した金物を介して分断することで、柱継手と柱梁接合部の合理化を図った。2階は2スパン分の12.6mを無柱空間とするため、トラス梁とした。なお、屋根形状が片流れであるため、弦材交点のディテールが課題であった。

そのため、上弦材を単材、下弦材を複材とし、斜材および上弦材を下弦材に挟みこむ事で交点の部材集中を回避した。下弦材を複材とした事で幅が確保できたため、建て方時の安定感も得られた。トラス部材継手部は、小口の開き止めのための必要最小限のボルトにドリフトピンを兼用することで、座金などの金物の見付を減らし、金物の存在感を減少させている。

作品(建築物)概要

構造形式：木造+RC造+S造 地上2階、塔屋1階

高さ：11.124m

建築面積：1,305㎡

延床面積：2,521㎡

用途：合同庁舎

所在地：静岡県浜松市天竜区二俣

竣工：平成21年3月

設計者：(株)竹下一級建築士事務所

構造設計者：(株)飯島建築事務所



写真1:外観



写真2:内観(ホール)

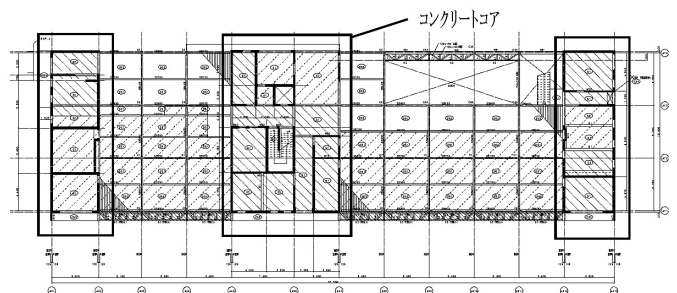


図1:2階伏図

3.免震装置および応答概要

細長い平面形状に起因して風荷重が大きいいため、免震装置はある適度の降伏荷重が必要であった。また、地震入力低減のためには、降伏後の剛性を小さくし、等価周期を長くする装置構成が理想であった。低層建物のため、軸力が小さい部位が存在することから、天然ゴム系積層ゴムおよび弾性すべり支承、剛すべり支承、オイルダンパーを適用した。結果として、500年再現期間の風荷重においても、免震層の降伏荷重の2/3程度かつ約30mmの変位に留まった。また地域係数1.2を考慮した上で、大地震時における最大変位は約45cm、かつ1階のベースシア係数が0.14程度となり、免震効果を発揮している。

上部の耐震要素は、壁式コンクリート部分であるが、木造部分の重量伝達が課題となった。屋根部分は構造用合板を設置するが、コア間の距離が大きく水平剛性が不足するため、設備置場のための陸屋根をコンクリートスラブとして計画し水平梁とすることで、合板屋根と協働で応力伝達を実現した。

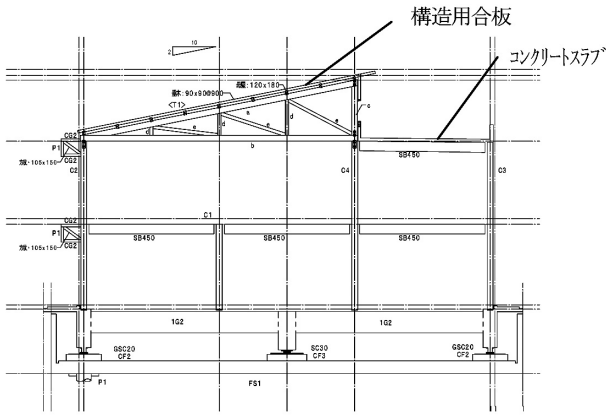


図2:軸組図

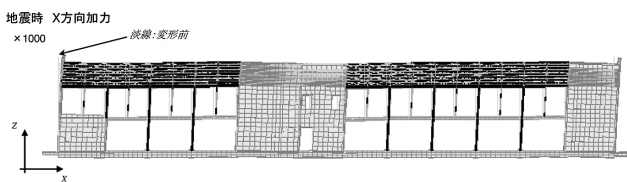


図3:地震時変形図



写真3:内観(トラス梁)



写真4:トラス接合部



写真5:接合部(柱-トラス-桁梁)

表1:層間変形角

方向	階	階高(cm)	最大の層間変位(cm)	最大の層間変形角	判定
X	2	360	0.0231	1/15584 < 1/300	OK
	1	400	0.0240	1/16666 < 1/300	OK
Y	2	360	0.0020	1/180000 < 1/300	OK
	1	400	0.0016	1/250000 < 1/300	OK

北陸部会の活動状況

北陸部会長 前田 嘉彦

■平成24年度活動状況と今後の予定

日付	活動項目	講師及びメーカー
4月21日	記念講演会 My favorite theory	日本建築学会会長 東京工業大学名誉教授 和田 章氏
5月19日	①「古典より学ぶ」 ②「耐震補強パラレル ユニットフレーム構法 の説明とプレストレス トコンクリート構造の 紹介」	①桜川幸夫会員 ②(株)富士ピー・エス
6月16日	「鉄骨の柱はり接合 部工法の製品説明」	日立機材(株) 旭化成建材(株)
7月21日	「愛知県建築住宅セン ターの構造計算適合性 判定事例集の解説」	財団法人愛知県建築住 宅センター 橋村 一彦氏
8月25日	「建築工事における 構造の監理」	(社)公共建築協会 的場 法治氏
9月15日	「地盤振動の理論と 講演」	信州大学工学部建築 工学科准教授 田守伸一郎氏
10月20日	「DB ヘッド定着工法 の設計指針および製 品の説明」	(株)ディビーエス 大谷製鉄(株)
11月24日	「中堅構造設計者研 修会 スキルアップ セミナー第1回」	JSCA 中部支部 宿里勝信氏(名城大学) 石井和彦氏(日総建)
12月15日	「中堅構造設計者研 修会 スキルアップ セミナー第2回」	JSCA 中部支部 山崎暢氏(清水建設) 土田崇仁氏(伊藤設計)
1月19日	新年互例会・講演会 「建築の翼-アーキ テクトゥール・デザイ ンとは何か」	日本大学名誉教授 斎藤公男氏
2月16日	①免震装置 ②ポリマーセメントモ ルタルによる耐震補強	①金沢セメント商事 ②前田工繊
3月16日	鉄骨造における講演会	(株)日本設計 藤田哲也氏

■スキルアップセミナー

昨年度の「JSCA構造設計者実務者研修<基礎編>」に引き続き、11月・12月にJSCA中部支部より講師をお招きし、「中堅構造設計者研修会-スキルアップセミナー全2回」を開催しました。



参加者は約40名で、日頃の実務に照らし合わせながら、基準や注意点の再検証を行うことが出来ました。

JSCA会員以外の参加も歓迎ですので、気軽に中部支部北陸部会事務局までお問い合わせください。



スキルアップセミナー風景



活動の様子1



活動の様子2

岐阜部会 平成23年度活動報告

岐阜部会長 芝川 豊

前期に引き続き、岐阜部会長を務めさせて頂いております芝川です。



前年度までの岐阜部会の活動に引き続き、岐阜県鐵構工業協同組合の青年部会さんとの「技術交流会」は、平成23年4月に住金精圧品工業様のご協力により高力ボルトの製造、品質管理について学ぶ機会を設けたこと（第11回）、平成23年9月には岐阜高校屋内運動場の現場鉄骨建て方見学会を開催した（臨時）こと、平成24年3月には組合青年部会の方々が役員改選の臨時総会を開催することにあわせ、建材メーカーさん各社の主に柱梁仕口と梁貫通孔補強金物を中心とした商品説明会を開催した（第12回）3つが活動として挙げられます。

岐阜高校屋内運動場見学会では、岐阜部会員以外からも複数の方に出席して頂き、岐阜部会の活動に興味を示して頂きました。

今後もこの交流会活動は続けて行くつもりですが、小グループでの議論が組合青年部会さん側から好評を得ていることや、「構造実験」的な机上の議論だけではない技術交流も望まれていることから、産官学交流も意識した計画を進めていく必要があると考えています。

県外JSCA部会さんとの交流の計画は、諸事情により来年に延期することにしましたが、続行しているテーマの1つです。

以後、活動報告ではなく方針的な書き方になってしまいますが、恒例となりました岐阜工業高等専門学校構造研究室との研究技術交流発表会は、先生の御退官により中断しております。しかしながら前項に記しました構造

実験的な交流会も視野に入れ、復活をしたいと考えています。

他団体との交流も同様に行ないたいとは考えておりますが、県内会員を始め中部支部の皆様のご協力を戴きながら一歩ずつ進めたいと思います。



高力ボルト製造工場見学会



岐阜高校屋内運動場現場見学会

大地を守り。
社会を支え。未来につなげる。
アメニティー&セキュリティー

- パイル製品
Hi-SC, SC, DAM, PHC,
MS-ST, TPジョイント 他
- 大臣認定工法
Hybridニーディング工法
Superニーディング工法
SueprDANK工法 他多数



豊かな技術で未来を創造する



三谷セキサン株式会社

<http://www.m-sekisan.co.jp/>

東京本社／東京都台東区柳橋2-19-6
TEL 03-5821-1120(代)

福井本社／福井県福井市豊島1-3-1
TEL 0776-20-3333(代)

名古屋支店／名古屋市中村区名駅3-23-2
TEL 052-565-1936(代)

「鉄骨造における講演会（基本編・応用編） ～日本設計藤田氏による私はこう考える！意見集～」参加報告

JSCA鉄鋼系部会委員 鹿島建設(株) 池田 一成

本講演会は、JSCA鉄鋼系部会主催のもと鉄骨造の分野で広く活躍されている日本設計藤田氏をお迎えして、平成24年9月19日中部地区の構造関係者を対象に竹中工務店会議室にて開催され、設計事務所、ゼネコン、鉄骨加工業者等より65名の参加がありました。

鉄骨造について基本編、応用編に分けて講演いただき、基本編では、藤田氏ご自身も執筆に携わられた「溶接接合設計施工ガイドブック」の4章について解説いただきました。溶接継手の性能に関わる要因、材料選定や溶接施工の要点について設計者や製作者など鉄骨従事者が理解しておくべき内容の他、注意すべき事項などをわかりやすく説明いただきました。ルートギャップを4mm以上とするのは何故か？パス間温度管理点を開先から10mmの位置とするのは何故か？といった数値の根拠についても学ぶことができました。引き続き応用編では、

- ・ノンブラケット工法に対する考え方
- ・梁端拡幅に対する考え方
- ・梁端部におけるUT検査の実態と見解
- ・亜鉛メッキ部分の溶接の注意点
- ・電炉鋼材の考え方
- ・溶接材料も含めたパス間温度、入熱の考え方
- ・AW検定の意義

について、最新の知見に加え、これまでのご自身の経験を交えながら工作上留意すべきポイントをはじめ、仕口部破断起点の問題、梁端拡幅開始点の製作上の不具合、端部探傷の欠陥率等について細部にわたり解説をいただきました。

最後にAW検定についてその意義と設立経緯、付加試験の目的、試験の種類とその内容について説明をいただき、藤田氏が建築鉄骨溶接技能者の有する高度技術に対して、社会的評価の高揚を図るために日々ご尽力されていることがよくわかりました。

今回の講演を通して、溶接部の品質確保の重要性について再認識するとともに鉄骨造建築物の設計に携わるものとして更なる深耕を図っていきたいと思います。



講習会の様子

第9回 JSCA 庭開催

2012年11月2日に、(株)建築会館支配人戸田幸生様、(株)損保ジャパン副長風間啓様を講師にお迎えし、「JSCA構造設計賠償責任保険とは」と題し、第9回JSCA庭が開催されました。

構造設計者は、社会的に大変責任ある仕事をしていますが、計算ミス、図面への転記ミス、現場対応ミスなどが発生する可能性を0にすることは困難と思われまます。そうした事態に遭遇した場合、また、裁判で訴えられた場合の保険として、構造設計者のための「JSCA構造設計賠償責任保険」（以後「JSCA保険」）があります。今回の講習会はその保険を対象に、どのような場合に保険金が支払われるのかについてお話がありました。支払われるケースとして大きく2つの場合があります。1つ目は、構造計算ミス等により、物理的「滅失もしくは損傷」が発生した場合。2つ目は構造設計ミスにより「構造基準未達」となり法律上賠償しなければならない状況が発生した場合です。

「JSCA保険」ができる以前は「建築家賠償責任保険」により、上記1つ目の物理的「滅失もしくは損傷」が発生した場合のみを保障してきましたが、今回「JSCA保険」ができたことにより、構造計算ミスによる「構造基準未達」に対してもカバーできるようになったことが大きな改善点の1つです。

関心のあるテーマであったため、講演終了後には数多くの質問が飛び出しましたが、講師の先生方からは懇切丁寧な説明を得ることができました。現在まで保険の対象になった事例は1件だけだそうですが、万一の場合に備え、保険のご検討をすることをお勧めいたします。

(文責 広報委員会)



講習会風景